

事務事業評価における総括

部 局 名	下水道河川部	記入責任者	大竹 功
評価について（現状と課題）			
<p>【事業の達成状況について（現状）】</p> <p>下水道河川部の政策的事業は16事業です。評価の内訳は、10事業をS評価とし、1事業をA評価、1事業をB評価、1事業をC評価、1事業をZ評価、2事業を実績なしとしています。</p> <p>C評価の1事業については令和3年度の事業展開に向けた用地測量の準備を進めることができ、今後成果が見込めるもの、Z評価の1事業については新型コロナウイルス感染症の影響によるもの、実績なしとした2事業のうち、1事業については対象となる補助金の交付申請がなかったもの、1事業については既に事業を終了したものであり、事業は概ね順調に進んでいるものと評価しています。</p> <p>【達成できた（できなかった）要因についての分析（課題）】</p> <p>コロナ禍による様々な制約の中で目標が達成できたことは、業務の効率化を進めることができた成果と考えています。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響によりZ評価となった事業に関しては、感染防止対策を講じた上で今後実施していくこととしています。</p>			
今後の方向性			
<p>【政策・施策目標の達成に向けた今後の方向性について】</p> <p>近年の気候変動による頻発化・激甚化する風水害を背景に、国が進める国土強靱化・流域治水の施策に基づき、本市においても市民の安全・安心を確保するため、浸水対策や下水道施設の耐震化等の地震対策を推進します。特に、浸水対策については、雨水排除能力の拡大に向けた面整備に加え、貯留・浸透等の雨水流出抑制対策も併せて実施します。各事業の実施にあたっては、優先度を見極めた上で事業の効率化とコストの縮減を図ります。</p> <p>老朽化している下水道施設についても、限られた財源の中で「茅ヶ崎市公共下水道施設維持管理計画」に基づき、予防保全の考え方による改築更新を計画的かつ効率的に行い、下水道施設の維持管理を実施していきます。</p> <p>公共下水道事業は、長期的には人口減少等の影響により、下水道使用料収入が減少する等の厳しい財政状況も予測されます。コストとそれに対する収益及び効果を意識し、経営の質の向上を図ります。</p>			